

第 1 回 歯科医師の需給問題に関するワーキンググループ	資料 2
平成 27 年 2 月 24 日	

歯科医師の需給問題に関わる現状及び課題について

1 歯科大学（歯学部）数及び入学定員【スライド 5】

- ・昭和 40 年から 50 年代にかけて歯科大学の新設に伴い入学定員が増加。
- ・昭和 61 年以降、検討会の報告書等を踏まえ、入学定員が削減。平成 26 年度入学定員は 2,460 人。

2 歯科医師国家試験【スライド 6～10】

- ・歯科医師国家試験の改善については概ね 4 年ごとに医道審議会歯科医師分科会歯科医師国家試験制度改善検討部会で議論。平成 27 年度に部会を設置予定。
- ・歯科医師国家試験合格率は直近の平成 26 年試験で 63.3%。ただし、新卒・既卒間、大学間、受験可能回数別で開きがある。

3 歯科医師臨床研修【スライド 11～13】

- ・歯科医師臨床研修制度は平成 18 年度より必修化。研修歯科医の大部分が主として歯学部附属病院で研修を実施。

4 歯科医師数【スライド 17・18、23・24】

- ・平成 24 年末の歯科医師数総数は 102,551 人で調査を重ねるごとに増加。
- ・歯科大学（歯学部）を設置している都道府県では人口 10 万人対歯科医師数が相対的に多い。
- ・各年齢階級別で歯科医師数に開きがあり、近年、若年層において女性の歯科医師数が増加。

5 人口の推移【スライド 19～21】

- ・日本の人口は少子高齢化の進展に伴い、今後人口減少社会に突入。
- ・人口推計に基づく人口 10 万人対歯科医師数は全都道府県において今後増加すると予測。

6 歯科医師の勤務先【スライド 25・26】

- ・ 歯科医師の勤務先は診療所の開設者が約 6 割程度を占めており、医師と比較して多い。
- ・ 男性の歯科医師は診療所の開設者が多く、女性の歯科医師は診療所の勤務者が最も多い。

7 歯科疾患を取り巻く状況【スライド 31～34】

- ・ 小児のむし歯の本数や有病率は経年的に減少。
- ・ 20 歯以上有する者の割合は調査を重ねるごとに増加。結果的に特に高齢者の歯周病の罹患率が増加。
- ・ 歯科診療所の受診患者の 3 人に 1 人以上が 65 歳以上。

8 歯科医療の提供【スライド 35～40】

- ・ 補綴物の算定状況等については平成 10 年と比較して減少。
- ・ 訪問歯科診療実施件数は調査を重ねるごとに増加しており、特に介護保険施設での増加が顕著。
- ・ 診療行為別にみた 1 件あたりの点数の構成割合は「歯冠修復及び欠損補綴」は減少。75 歳以上の高齢者では「在宅医療」の伸びが顕著。